

愛媛県新居浜市泉川校区  
地区防災計画



防災は 備えと意識と 助け合い  
～泉川の合言葉～

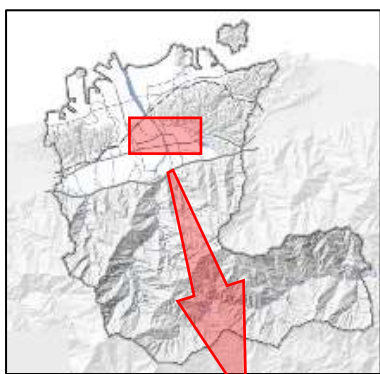
令和5年2月

## 1 地域の概要

泉川校区は、市の中心部から南東側に位置し、住宅地は西側に集中し、その中心付近には、泉川小学校、泉川中学校、泉川公民館、商業高校があり、災害時には避難所として活用されることとなります。また、住宅地には、スーパーマーケット、ドラッグストア、ホームセンターが多くあり、災害時における物的支援を受けることができます。

中央部には、二級河川の国領川が南北に流れ、東側から市場川が合流しており、西側には尻無川が南北に流れており、東側にある郷山には清掃センターやグリーンフィールド新居浜（市営サッカー場）といった市の施設、JR新居浜駅南側には災害時に市の物資集積場所となるJAえひめ未来経済センター、南西部には市上部支所と南消防署が存しています。

また、北西部にはJR予讃線とJR新居浜駅があり、中央部と南側には重要な幹線道路である国道11号線及びバイパスが東西に延びており、南西側には川西地区への経路となる楠中央通り（主要地方道新居浜角野線）と国道が交わる東城交差点、中央部には川東地区への経路となる県道新居浜東港線が通っています。



## 2 社会特性

### (1) 世帯・人口構成及び比率

(令和5年1月現在)

世帯	比率(%)	人口	比率(%)	男性	比率(%)	女性	比率(%)
6,027	10.5	11,647	10.1	5,530	9.9	6,117	10.2

### (2) 避難行動要支援者数(市で確認済みの人数)

(令和5年1月現在)

対象者数	同意	不同意	その他
357	207	37	113

## 3 自然特性・災害特性(地域で起こりうる災害)

### (1) 被害想定

想定震度	津波浸水深及び浸水開始時間	液状化危険度
6強	なし	極めて高い(30<PL)※
土砂災害	洪水浸水	ため池浸水
特別警戒区域	あり	0.5~3m 家屋倒壊あり
警戒区域	あり	
		3m以上

※ PL=液状化可能性指数。数値が大きいほど液状化の危険性が高くなる。

### (2) 地理的特性

流域河川	二級河川	国領川、尻無川、市場川
	普通河川	東田川、平尾谷川、北谷川、池田川
洪水浸水想定区域	愛媛県指定区域	上泉町、外山町、岸の上町一・二丁目、城下町、下泉町一・二丁目、観音原町、東田一・二丁目、国領一丁目
	愛媛県指定区域外	松木町
土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域		観音原町、光明寺一・二丁目、東田一・三丁目
南海トラフ巨大地震による津波浸水想定区域		なし

### (3) 想定される災害

災害種別	被災内容	備考
地震	想定震度6強(建物倒壊、液状化、ため池決壊)	
津波	なし	
洪水	最大想定浸水深0.5m~3m(想定最大規模)	
土砂災害	土石流、急傾斜地の崩壊	

#### 4 防災の取組状況（予定）

取組時期	取組内容	対象
毎年5月上旬	校区防災訓練（地震体験、AED使用、煙体験等）	地域住民 中学生

#### 5 災害時の課題

区分	課題
地震	光明寺奥池、池田池の堤防決壊
水害・土砂	土砂災害警戒区域がある。 国領川の東側に避難場所が少なく、避難所がない。

#### 6 災害時の現状

区分	現状
地震	家具の転倒による被害発生が考えられる。
水害・土砂	土地の低い場所で床上浸水のおそれがある。 下東田、光明寺、観音原の各地区では、土砂崩れのおそれがある。
避難所開設運営	国領川の東側に避難所がない。
自助共助の向上	家族間の連絡（避難場所等）を決めていない。 非常持出袋、備蓄（食料、水、衣類等）、災害時使用資機材（カセットコンロ等）の準備ができていない。 隣近所とのコミュニティが不足している。 自治会の連絡網を整備する必要がある。
要支援者の支援	要支援者・高齢者が増加している。
その他	

## 7 災害時の対策

区分	対策
地震	家具の転倒防止による屋内の安全確保を図る。
水害・土砂	まちあるきにより地区内の危険箇所を点検し、共有する。
避難所開設運営	避難所を運営するための訓練を行う。 資機材の点検を毎年行う。 有志による避難所キャンプ体験訓練を行う。
自助共助の向上	避難場所、集合場所を決めておく。 非常持出袋（食糧、水、貴重品、薬等）、災害時使用資機材（毛布、カセットコンロ、アルミシート等）を準備しておく。 備蓄品を備え、ローリングストックする。 テレビ、ラジオ、インターネットなどで情報を収集する。 隣近所と顔見知りになり、自治会区内の連絡を密にする。 自治会の連絡網を整備する。
要支援者の支援	隣近所の安否を確認する。 要支援者名簿等を作成する。
その他	若手の防災士を育成する。 校区及びブロック別の防災訓練を実施する。

## 8 緊急避難場所及び避難所

施設名		収容人数		使用制限
		緊急避難場所 として	避難所として	
泉川小学校	校舎	5,928	1,481	
	体育館	1,023	255	
	グラウンド	12,800	—	
泉川中学校	校舎	3,871	967	
	体育館・武道場	2,242	560	
	グラウンド	14,451	—	
新居浜商業高校	本館・第1教棟	4,691	1,172	
	第2教棟	3,453	863	
	体育館	1,500	375	
	武道場	325	81	地震×
	グラウンド	26,435	—	
泉川公民館		979	244	
瀬戸会館		623	155	
瀬戸公園		2,000	—	
寿公園		2,800	—	
西喜光地公園		2,100	—	

## 9 自主的な緊急避難場所

施設名	受け入れ自治会	使用制限	備考
喜光地西町自治会館	喜光地西町、喜光地栄町自治会	風水害×	
下泉会館	西黒、常久、酒屋小路自治会	地震×	
下東田自治会館	下東田自治会	土砂災害×	
東田自治会館	東田自治会	風水害×、ため池×	
西喜光地自治会館	西喜光地連合自治会		
光明寺自治会館	光明寺自治会		
下泉久門自治会集会所	下泉久門自治会	風水害×	
下泉コミュニティ会館	吹上自治会	風水害×	
松木坂井自治会館	松木坂井自治会	風水害2階以上	
観音原自治会館	観音原自治会	土砂災害×	

## 10 防災活動計画（5ヶ年計画）

### （1）校区

実施内容 (実施対象)	年度計画					目標
	R5	R6	R7	R8	R9	
非常食の備蓄・管理 公民館 小中学校 (自治会8ブロック)	検討	⇒	実施	⇒	⇒	備蓄品の選定、量、保管場所の決定
まち歩きによる危険箇所の点検 (防災士会中心に安全安心部会)	実施	⇒	実施	⇒	実施	現行防災マップの見直し・更新
避難所運営訓練と防災キャンプ (連合自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	参加者の固定化を解消し、より多くの世代の参加を図る。
中学校との合同防災訓練 (中学校・連合自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	消防署・消防団の協力を得て毎年実施する。 若年層の防災意識の高揚
ブロック別防災訓練 (自治会8ブロックのローテーション)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	より身近なブロック別に訓練を実施 防災士会の協力
防災訓練を取り入れた運動会 (連合自治会)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	自治会行事を通じての防災意識の高揚 (備蓄非常食の活用)

(2) 自治会

実施内容 (実施対象)	年度計画					目標
	R5	R6	R7	R8	R9	
実効性のある自主防災組織の立ち上げ充実 (単位自治会)	検討	⇒ 順次	⇒ 実施	⇒	⇒	自治会役員の単純割当ではなく、より広汎で専門性のある組織を目指す。
災害用名簿の作成 (より身近なもの) (単位自治会)	検討	⇒	⇒	⇒	⇒	要支援者に加え有資格者（看護師、建設関係等）も記載 より身近で実効性のある名簿の作成
非常食の備蓄・管理 (自治会・ブロック)	検討	⇒	実施	⇒	⇒	自治会館への非常食備蓄 訓練で活用し補充管理を適切に行う。
防災資機材の点検・活用 (自治会・ブロック)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	必要な資材の追加・充実
一時避難場所の検討 (自治会・ブロック)	検討	⇒	実施	⇒	⇒	より身近な一時避難所について、自治会・ブロック単位で必要性も含めて検討し、地区住民に説明する。

(3) 家庭

実施内容 (実施対象)	年度計画					目標
	R5	R6	R7	R8	R9	
災害時避難場所の確認 (同居家族)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	家族内の話し合いで事前に集合場所、避難所を確認・周知しておく。
水・非常食（3日分）の備蓄と管理 (同居家族)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	購入後の保管場所や消費期限を家族で共有認識する。
家具転倒防止の備え (家庭)	検討	⇒	⇒	⇒	⇒	危険な家具のチェック、行政支援も含め、早めに対応する。
非常持出袋の準備 (家庭)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	ローリングストックの実施 持出品の選定・置き場所の確認
住宅用火災警報器の設置・点検及び交換 (家庭)	実施	⇒	⇒	⇒	⇒	必要な場所に設置できているか確認 使用期限の確認